

前田議員（自民議連）

令和2年9月28日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）結婚や子育ての素晴らしさを伝える教育について

学校教育の中で、小学校・中学校・高校の各成長段階に応じて、結婚や子育ての素晴らしさを伝えることができないかと考える。既に、NPO法人等で実施されている事例として、地域に生まれた赤ちゃんとそのお父さんやお母さんが先生となり、生徒たちが赤ちゃんとの定期的な触れ合いを通して、赤ちゃんへの愛情や成長の喜び、親としての感動と責任、また、共に子育てをしていくパートナーの存在の大切さや、家族についてあらためて考えるなど、貴重な体験として学ぶという取組がある。

そこで、少子化対策にも資する結婚・子育てに係る現在の教育方針について、教育長に伺う。また、NPO法人等における体験型の事例を踏まえ、このような取組を積極的に取り入れてはどうかと考えるが、併せて、教育長の所見を伺う。

（答）

少子高齢化社会において、次代を担う子供たちが、様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向け、互いに協力して家庭を築くことや、子供が育つ環境としての家族の役割について学ぶことは、重要であると考えております。

このため、中学校におきましては、家族や家庭生活の在り方を学ぶとともに、保育所や幼稚園等を訪問し、幼児と触れ合う活動などを通して幼児の発達と生活の特徴について学ぶ取組を展開しているところでございます。

また、高等学校におきましては、家族・家庭の意義等についての理解を深めることに加え、モデル校において、男女共同参画の視点から結婚、出産、育児などについて考え、自ら選択する力を育成するなど、ライフマネジメントに関する学習プログラムを開発し、広く展開しているところでございます。

さらに、地域の社会福祉協議会やNPO団体等と連携し、乳幼児の親子を学校に招き、子育ての苦労話を聞いたり、子供と触れ合ったりすることを通して、自己肯定感が高まることに繋がるような体験的な学習活動に取り組んでいる学校もございます。

教育委員会といたしましては、今後とも、発達段階に応じて、生徒に多様な生き方を示し、互いに協力して家庭を築くことの重要性などについて、実践的・体験的に学ぶことができる教育活動を展開してまいります。